

第3回 高知県地域公共交通活性化協議会 路面電車あり方検討会 議事概要

- 1 日時 令和7年11月27日（木）10：00～11：30
- 2 会場 高知共済会館 大ホール桜（会場・WEB併用方式）
- 3 出席 委員15名中15名（うちWEB出席1名、代理出席3名）
委員12名（西内会長、森本副会長、松岡副会長、熊谷委員、片庭委員、一色委員、濱田委員、樋口委員、鈴木委員、坂本委員、藤木委員、黒岩委員）
【代理出席3名】
（高知市政策企画部 林部長、南国市企画課 田所課長、
高知県土木部道路課 宗光課長補佐）
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 協議事項
 - 将来像検討のための調査（中間報告）
 - ・路面電車の検討状況報告
 - ・路面電車と他の公共交通モードの連携
 - (3) 連絡事項
次回の日程について
 - (4) 閉会
- 5 意見交換（主なもの）
 - 前回の検討会では、路面電車の将来像検討のための調査の進め方、路面電車・路線バスの現状把握のための利用者アンケート等、調査・分析等について協議した。本日は、路面電車の将来像検討のための中間報告を委託事業者より受ける。
 - アンケートは、路面電車のご利用者向けの調査であり、路面電車へ価値があると評価する。非利用者の価値観も重要である。
 - 設備投資にも、資料に例示している耐震化、車両更新のほかに、多様なものが考えられる。今後、とさでん交通へのヒアリング、他軌道事業者へのヒアリング等をとおして、内容の洗い出しや事業者間比較等をとおして調査していきたい。
 - バスより電車のほうが「ですか」利用率が低く、1/2程度であり、バスは地元の人が多く6割が「ですか」である。
 - 資料10頁の「把握したこと」のなかで、“高知市中心部から離れるほど利用が減少している”という文章は、現在進行形の意味か、利用が少ないという意味か、減少率が高いということか、はっきりしない表現になっている。利用が少ないということは、当然といえば当然である。
 - 今後一緒に考えていきたいが、資料10頁にある他鉄軌道事業者との比較検討深化を是非願う。比較するだけでなく、とさでん交通だからできること、考え方のシミュレーション的な分析ができればと考える。中間報告をうけて、繋げていければと思う。

- 今回の資料は、とさでん交通のみである。今後、県交北部交通、高知東部交通の「ですか」利用実態データの分析を追加する。
- 割引は、今後、輸送人員増加と収支改善双方につながる施策を検討いただきたいし、していきたい。なかなかハードルは高いという気がする。商業施設との連携等では、連携先施設がお金を出すにもメリットが必要である。メリットの範囲内で運賃補助ができるか、現実性・可能性、事業性を検討のうえで提言、調査報告としていただきたい。
- 現状把握は、利用者調査など、とさでん交通と対話して、肌感覚とあっているか確認いただきたい。また、過去多くの施策を実施し、改善効果があったもの、なかったものが含まれると思う。その整理をいただきたい。
- ボトムアップの政策として事業効率化は重要な点である一方、トップダウンの政策をしたとき、路面電車の収支でなく、まちづくりとしての効果発現を議論いただき、路面電車や地域公共交通だけで閉じない工夫をやっていただきたい。
- 全国的にみて、50歳以下の自家用車への指向性が変化し始めている。一つのターゲットは、若年層である。免許を持たない若年層が増加している。こうした人をターゲットにしたとき、若者に何が必要か。例えば、運行時間延長なら、具体的にどの程度の時間延長を想定すれば需要が増加するのか。一方で、高齢化社会において、免許返納後の高齢者をどのように拾うのか。あるいは、観光客、インバウンドへどこまで踏み込むか。そうしたもう一步踏み込んだ話が次回できればよい。
- 資料18頁に“開発計画とあわせて”という記載があるが、これ以外に、実際の土地利用や最近のまちの変化もメッシュに入ると思うので、これらを入力して将来動態の予想、イメージを考えたい。
- 潜在需要のデータは、今回の資料で1000人以上の回答がとれたので、リッチなデータがとれたと考える。これを最大限に活用して、高知のモビリティ特性を網羅的に把握していくことが重要と考える。
- まちづくりの観点から、まちづくりや上位関連計画を含め、地域公共交通のあり方では軸になる。今回は、我々で路面電車を検討しており、路面、つまり道路を使っている。まちづくりを含めると、他モードとの連携で、バス以外に自転車、徒歩といった道路空間活用を含め、あり方を提示していくのがよいと思う。